

5/1

2010 No.266

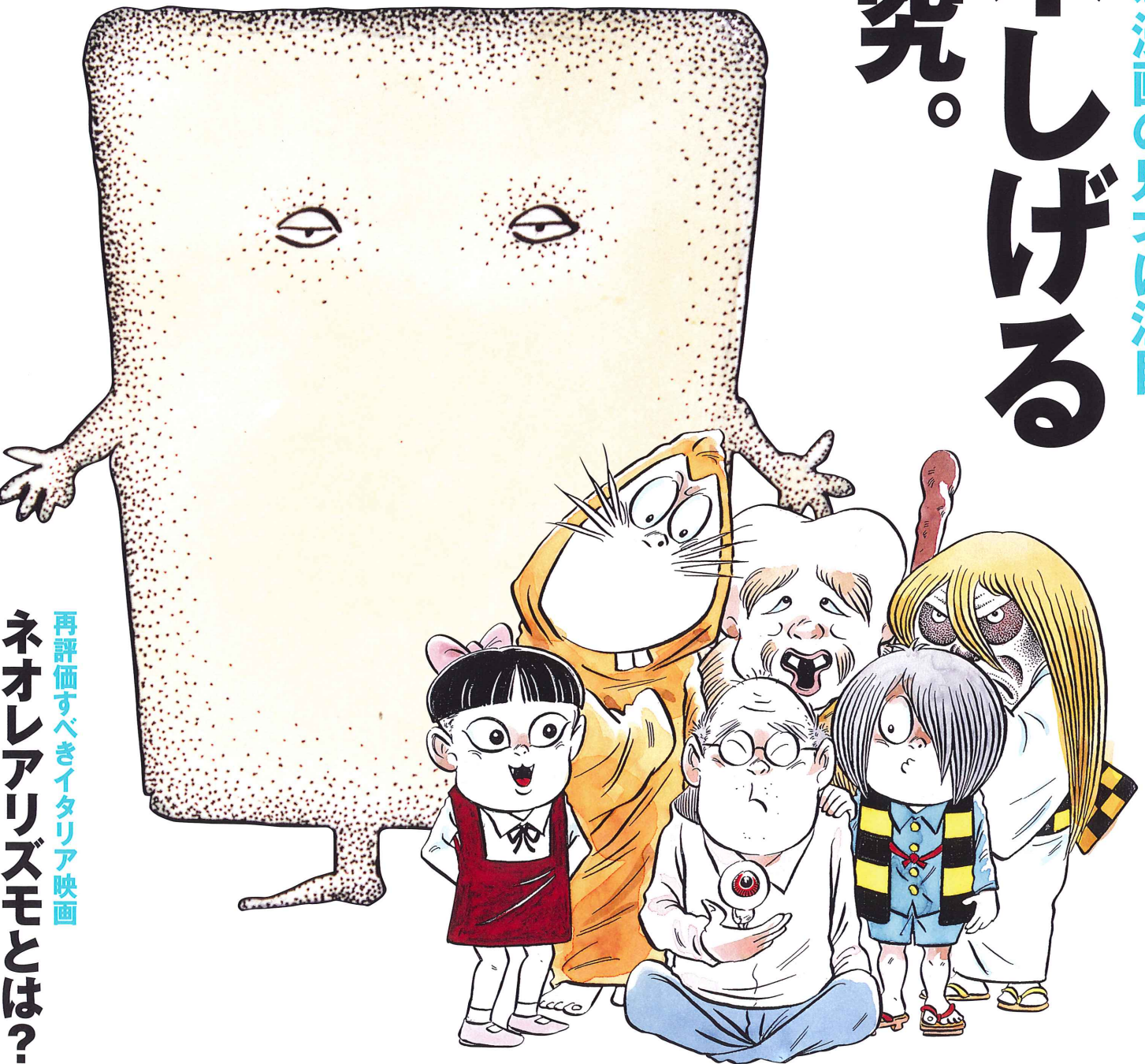
定価 600 yen

pen

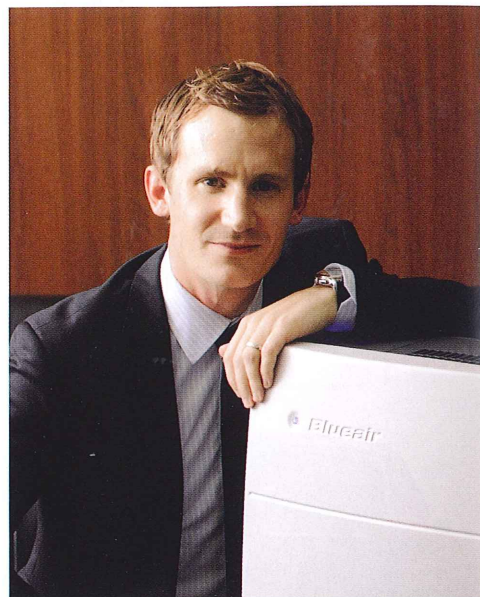


with New Attitude

いまこそ日本漫画の鬼才に注目! 水木しげる 大研究。



再評価すべきイタリア映画
ネオレアリズモとは?



Herman Pihltrad

1978年スウェーデン生まれ。スウェーデン王立技術大学にて科学技術・機械工学を学び、エンジニアとして特許技術に携わる。生産ラインやブランドの立ち上げを手がけ、2009年より現職。

ハーマン・フィルトラッド 北欧からクリーンな風を運ぶ、 シンプルで美しい空気清浄機。

スウェーデン発の空気清浄機専門メーカー、「ブルーエア」。空気を清浄するという機能にびっぴりなクリーンでシンプルでデザインに、北欧らしさを感じる。すでに海外では高級ブランドとして認知度も高く、ついに今年3月、日本に初上陸を果たした。

その海外営業統括責任者が、ハーマン・フィルトラッド。まだ32歳という若さながら、年間15カ国以上を飛び回る敏腕ビジネススマンだ。

「空気清浄機はいま、差別化を図るためにさまざまな機能を付加する傾向があります。しかし我が社は基本に忠実に、空気清浄能力に注力して改良を重ねてきました。世界最高水準の空気清浄能力でありながら、騒音を抑え、消費電力も低い。デザインは北欧でも名高いスウェーデン・デザイン優秀賞を受賞し、国立美術館にコレクションされているほどです」
そんな性能とデザインはアメリカでも評価され、アメリカ国内では海外メーカ

ブルーエア 海外営業統括責任者

ーでトップシェアを誇る。その実績を引いて、新型インフルエンザやアレルギー対策で拡大している日本のマーケットに照準を定めたというわけだ。

とはいえ、多くの家電メーカーがひしめく日本のマーケットは、決して甘くない。しかしフィルトラッドは、日本人の健康志向と、意外にスウェーデン人の共通点が多いところに、日本での可能性を感じているという。

「謙虚を美德とする点や、シンプルなものに価値を見いだすという氣質がとても近いと思います。高性能でシンプルなブルーエアは受け入れられやすいのでは」
スレンドーですらりと背の高いフィルトラッド。通勤に自転車を利用し、週末には社会人リーグでサッカーチームのキャプテンを務める。明瞭な語り口は、そんな彼の爽やかで実直な人柄を感じさせるものだ。北欧の心地よい風を運んでくるかのよう。そんな人柄を的確に伝えるようでもあった。



WHO'S WHO

超・仕事人

photograph by Seiji Tonomura (Herman Pihltrad), Kaku Otaki (Joe and Charlie Casely-Hayford), text by Shinobu Sawada (Herman Pihltrad), Hisashi Ikai (Joe and Charlie Casely-Hayford)

ジョー・ケイスリー・ハイフォード チャーリー・ケイスリー・ハイフォード ファッションデザイナー

クリエイティブな親子が奏でる、 伝統と革新の二重奏。

英国の正當な仕立て紳士服の血統を受け継ぎながら、バンクやロックといった時代における現代的でセンセーショナルな要素を絶妙に取り入れるケイスリー・ハイフォード。創業以来ブランドを率いてきたデザイナーのジョーが、2年前よりクリエイティブパートナーとして組んでいるのが、長男のチャーリーだ。

ともに長身で甘いマスクのジョーとチャーリーは、まさしく似たもの親子。双子座生まれで誕生日もまったく同じと聞くと、父子というより双子の兄弟という感覚さえ覚えてしまう。

「チャーリーは美術の世界に進むのかと思っていたのですが、気付いたらファッションに興味を持ち始めていて」とジョーが語れば、「子どもの頃から、学校帰りに父のアトリエに入り浸って、妹と一緒にテキスタイルにまみれて遊んでいた

「無意識のうちに感じていたと思います」
伝統と革新という、相反する思想をブランドコンセプトに据えてきたケイスリー・ハイフォード。親子タッグにより、さらにその二元性を際立たせていくことだろう。

ましたから、今の状況も自然な成り行き」と、チャーリーが続ける。

世代こそ違いますがデザインの感性に共通点は多く、ジョーの作品アーカイブから、チャーリーが新しい要素を見いだしてくることも頻繁にあるという。一方、父親としてのジョーは、チャーリーの目にはどのように映っているのだろうか？

「母も同じ仕事をしていたので、仕事と家庭環境を切り離して考えることは難しいですね。でも、一つひとつの仕事を手寧に仕上げるジョーの姿を見て、職人として、そして父親としての素晴らしい

「無意識のうちに感じていたと思います」
伝統と革新という、相反する思想をブランドコンセプトに据えてきたケイスリー・ハイフォード。親子タッグにより、さらにその二元性を際立たせていくことだろう。



Joe and Charlie Casely-Hayford

左から、ジョーとチャーリー。1980年代後半よりブランドを立ち上げ、2007年にはその功績からOBE(勲章)を叙勲。チャーリーはモデルとしても活躍。www.casely-hayford.com

